



日帰り旅行で水族館へ。  
いろんな生き物が  
見られました。



施設長 貝沼 寿夫

## 興味と好奇心

新年あけまして、おめでとうございます。新しい時代の幕開けの本年も、どうぞよろしくお願いたします。

日常の中で様々な利用者の姿を観ています。その中でこれまで全く見られなかった新たな行動を発見することがあります。iPadで自分自身が映っている動画を見て笑顔になって利用する利用者。食堂の時計の光が気になり、それを椅子に上って触る利用者。見学者の案内を自ら買って出て、「こちらでございませう。」と右手を上げて誘導する利用者。どれもこちらが温かい気持ちになり笑顔になれる姿です。

自閉症の方たちを中心に重度の知的障がい者の多くは、興味関心が非常に限定されています。しかしながら彼らは、今まで気にもしなかったものに興味を持つことになり、その上見てみよう、直に触れてみたい、誘導してみようと好奇心を持った結果がこのような行動に繋がったのです。

先日所内において利用者の権利擁護について考える実践として、利用者や職員一人ひとりの良い点を職員全員一言書きにする取組を行いました。書きあがったものは、それぞれにお渡しし、ご家族や後見人様にも写しをお届けしました。大変喜んでいただけました。今回の取組は大成功でした。

人はどうしても、関係性やイメージで他者を評価したりカテゴライズしたりしています。障がいの有無や自閉症だからダウン症だから、〇△大学出身だから、一流企業に勤め

サービス管理責任者 坂口 麻衣子



## 魅力を発信

こぶしだよりの作成を担当している事務の落合です。こぶしだよりでは毎号行事を中心に利用者さんの様子を写真で紹介しています。

写真の選定・レイアウトの作業をする際には利用者さんの様々な場面や表情を見ることが出来るので、普段直接係わる機会が少ない事務員の私にとっては、毎月楽しみな業務の一つとなっています。

今年度は、ライフパートナーこぶしの活動や利用者さん・職員の魅力をもっと知ってもらいたいと、紙面の改定を行いました。

今月号にも掲載している「ねえねえ、きいて」のコーナーでは、職員が仕事の中で感じたこと、嬉しかったことをご紹介します。短いエピソードでほっこりしてもらえたらと始めました。

これからもこぶしだよりを皆様に楽しんでいただけるよう、工夫を重ねていきたいと思っています。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

事務員 落合 愛子

ているから：良い・悪い、ああいう人だ・こういう人だと、ある一面だけで判断し決めてしまおうことを時折見かけます。

利用者の権利擁護を考える上でも、一面だけで判断することは危険です。木を見て森を見ずではなく、その人の出来るだけ多くの面を知ることが大切です。決して100点満点完全無欠の人は存在しません。長所もあれば短所もあり、得意があれば苦手があります。短所や苦手があるからこそ人は協力し合えるのです。また短所や苦手だけに着目するのではなく、必ず存在する長所や得意な面に目を向けることは重要です。そうした多くの面に目を向けるためにも、人・他者に興味を持ち、好奇心を持って行動に繋げ関係を作ることが大切なのではないでしょうか。

私達の支援は、障害の有無に関らず生涯に渡って成長発達し続ける生涯発達の考えを基にしています。成長発達するために不可欠なもの：それもやはり、興味と好奇心です。それらがあるからこそ、新たな行動にチャレンジし、出来ること・理解することが増え成長していきます。そして他者や自分を何かの枠にカテゴライズしないことも大切です。カテゴライズすることで、他者を否定し排他してしまう、自己否定して自信を失い自らの可能性を狭めてしまう気がしてなりません。

利用者のちよつとした行動から、こんな気づきが得られました。今年1年みんな興味と好奇心を持ち続けて、各々が成長を実感できる良い1年にしていききたいと思えます。

# フォトニュース

## 日帰り旅行 5班 ～サンシャイン水族館～



## 創作活動 ～ミノムシ作り～



## “ねえねえ、きいて”



<土橋 龍介>

余暇日、のんびりした時間にご利用者と談笑している。ふと周りを見ると、似たようなグループができています。一瞬仕事であることを忘れる。振り返ると良い時間だったなあ…。

ショートステイのご利用者には一期一会を意識する。コミュニケーションを取って私を意識してもらい、お帰りになるまでに声を掛けてもらえると、嬉しさのあまり感謝の気持ちが芽生える。ああ、ありがとうこの命、ありがとうあなたとの出会い。

<矢部 帆乃>

Aさんとコミュニケーション活動を始めて、もうすぐ1年。神経衰弱ゲームでペアが見つかり、「すごい!できた!」と喜びを共有する中で、Aさんからの「じょうずー!」が最近たくさん聞かれるようになりました。楽しい!経験を通して、Aさんとの距離が日々縮まっていると感じています!

ユニットに入る際に、「靴を脱いでから入りましょう」と一緒に靴を脱いでいたBさん。ある日、私が靴脱ぎ場で脱いだ靴を、そっと下駄箱に入れて下さり、その後に自分の靴を脱いで下駄箱に入れていました。驚きと同時に、Bさんの優しさに、心が温くなりました。

## 今の自分よりも先へ

2年目の身ですが、後輩ができました。後輩達とは仲良く、でも疑問があるときはお互いに疑問を投げ合うような仕事が出来ていると私は感じます。今後、後輩達がどう成長するのか青二才の身ですが楽しみです。

今までの人生でも感じてはいたのですが、後輩が出来ると視野の広さや察する気持ちが重要です。今お互いに困っている事はないか、何をすればいいのか…お互いすぐに言うことが出来るなら問題はありませんが、それを言ってもいいのか後輩側が遠慮してしまいわからない場合もあります。また、後輩が出来てから支援や施設内の情報を再確認するようになり、今まで勘違いしていた事や他支援者との情報の相違が見えてきました。

今後もこの施設や利用者、保護者や後見人の方々のご迷惑にならないよう、自分の出来ることは自分で行い、他支援者が困っていると感じた時は先輩後輩問わず声を掛け、情報の共有を怠らぬよう尽力して参ります。

生活支援員 奥住 憲矢